

保健体育科部会

研究主題 豊かなスポーツライフの基礎を固める体育指導 ～幼保・小・中・高の連携を通して～

1 主題について

今年度も、研究の重点として「生涯にわたって運動に親しむ能力の育成」「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」「コミュニケーション能力及び論理的思考力の育成」の3点を柱に取組を行った。成果を確かなものにするために本年度もこの研究テーマを設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月10日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月29日	第2回総合研究会 授業研究会（比内中学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成26年10月29日（水）
- ・会 場 比内中学校
- ・単元名 2年球技「サッカー」
- ・授業者 菅原 洋一
谷川原 宏一



【作戦ボードを使って作戦タイム】

① 授業者から

- ・サッカーは1年次から行っている。1年生の授業では、スペースをうまく使えず、ゴチャゴチャしたサッカーだった。
- ・サッカーを実際に行ってみて、個人技能が向上しないと集団技能も向上しないと改めて実感した。
- ・今回の授業では、ボール操作だけではなく、スペースの作り方などのボールを持たない人の動きの重要性を意識して授業を行った。
- ・作戦ボードや分析カードなどを使った話し合いはどうであったか意見をいただきたい。

② 協議

- ・男女混合チームはどうだったか。混合チームの中に人を動かせる男子がいると、女子を活躍させることができる。また、女子のいるチームにもサッカー経験者がいることで班の話し合いの盛り上がりが違ってくる。
- ・学習カードが冊子になっていて、内容も大変分かりやすかった。振り返りでは、いくつかのキーワードを使ってまとめるようにしていたので、視点がはっきりしていてよかった。
- ・ランニングを一斉に行っていたが、トップからラストまで3分の差があった。グループごとに行った方が待っている時間をなくしていけると思う。
- ・めあてを確認したら、すぐにめあて達成のための練習をさせたい。よって、基本練習はウォーミングアップの中に入れた方がいいと思う。

- ・学び合いでもサッカーが得意な人がよく話し、苦手な人は話せない。結局、知識がないと話せない。だから、基本的な知識をしっかりと押さえておく必要がある。
- ・試合の人数がゴールキーパーを除くと3対3だった。3対3だとスペースが分かっているけど疲れて走れないので、4対4で行った方がよかったのではないかな。
- ・めあてが「スペースをつくる」と「パスをつなぐ」ことの2つだときつい気がする。どちらか1つに絞った方がよいと思う。
- ・作戦タイムや振り返りの時間は、テーマを決めて話し合った方が、話し合いの視点がはっきりすると思う。
- ・言語活動は目的ではなく、課題達成のための手段。話し合いも班に任せるのではなく、先生方がもっと引き出してほしい。



【試合でのスペースを作る動き】

(2) テーマ研究

各校の「単元と評価」について、日頃の実践での悩みや問題点などについて情報交換を行った。

(3) 指導助言（北教育事務所山本出張所 指導主事 渡部 剛）

- ・すべての生徒にねらいを達成させるための意識が教師には求められる。そのために、導入の内容を精選して、終末を充実させる必要がある。そこで大事になってくるのが、ねらいと評価の一体化やねらいを十分に吟味すること、授業のゴールをイメージすることである。
- ・言語活動では、話す量を増やすだけでなく、教師と生徒、また生徒同士のコミュニケーションを大事にしていくことが重要である。互いの良さを認め合ったり、互いに教え合ったりしながらコミュニケーション活動を充実させたい。
- ・保健体育の授業を通して、健やかな体を育成することが重要である。平成25年度の新体力テストでは秋田県は全国平均よりも高い数値を残している。それは先生方の日頃の指導の成果である。また、秋田県はよい子どもが育つ都道府県ランキングで第1位である。それも秋田県の教育水準の高さによるものだといえる。
- ・今年の中学校2年生は2020年東京オリンピックでは20歳になっている年代である。そのときに、「得意でスポーツをしている」「スポーツが好きで応援している」「ボランティアで参加している」など、いろいろな形でオリンピックに関わってほしいと思う。
- ・大変落ち着いて話を聞き、熱心に取り組む生徒たちだった。これも日頃の先生方の取組によるものである。敬意を払いたい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・球技における言語活動として、作戦板を使っただけの作戦タイムが有効であった。話し合いのテーマをもつことが重要であることを確認できた。

(2) 課題

- ・難易度の高い種目に関しては、本時のねらいを精選することが大切である。